



聖書を読む会 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCC ビル内  
ウェブサイト: <https://syknet.jimdofree.com/> Email: [sykooffice21@gmail.com](mailto:sykooffice21@gmail.com)  
Facebook: <https://www.facebook.com/FB.SYK> 郵便振替: 00180-9-81537

No. 126

2022/12/1 発行

## 聖書研究に育まれて

大阪聖書学院常勤講師

老松 望

私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、一人の成熟した大人となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。(エペソ人への手紙 4:13)



私がキリスト者学生会(KGK)の主事をしていた時のことですが、自分の地区の夏の合宿(KGKでは「夏期学校」と呼んでいます)に、他の地区の主事を講師として招いたことがありました。その主事のメッセージは、どれもわかりやすいものだったのですが、中でも一つのメッセージが特に印象に残りました。これまであまり意識してこなかった視点を示すものでしたし、学生の現実にぴったり合っているものに思えたからです。そこで、メッセージが終わってから、どのように準備したのかと、その主事に尋ねてみました。すると、彼はすぐに「今回のメッセージは、学生とのグループ聖研で得た気づきに基づいているんですよ」と答えてくれました。私は、それを聞いて、「なるほど」と納得しました。学生と共に教えられたことだからこそ、学生に届くのかと...

そして、主事同士でこのような対話をしたことは、一度や二度ではありませんでした。ある主事は、学内での聖研から帰ってきてすぐに、自分のメッセージの原稿に修正を加えたことが何度もあった、と話してくれました。また別の主事は、一つの

グループで耳にした話を、他のグループでも分かち合うようにしている、と教えてくれました。学生自身の言葉と、彼らの御言葉への応答の中に、彼らの抱えている課題や彼らの共感を呼ぶ事柄を知るヒントが満ちているからです。このように、主事たちは、学生との聖研の中で、御言葉の奉仕者として育てられてきたのです。

もちろん、私自身もそうでした。学生だけでなく、様々な方々と聖書研究をする中で、私も多くのことを教えられてきました。



もう随分前のことですが、ヨハネの福音書 5 章のベテスダの池の箇所での聖研をしたことがありました。そのテキストの序盤の方に、池の周囲の雰囲気について問う質問がありました。そこで、皆で回廊の光景を思い描いていましたら、一人の参加者が、ぼそっと「独特の臭いがしたと思う」と答えられました。

恐らくその方は、ご自身の介護の経験からそのように思われたのでしょうか、私には全くない発想でしたから、正直に言って少し戸惑いました。しかし、考えれば考えるほど、たしかにその通りだろうと思うようになりました。当時は現代のような衛生管理はできませんし、誰かが香水を塗ってくれるわけでもなかったでしょう。この 5 章の主人公である 38 年間病気にかかっていた男性も、もしかしたら褥瘡を患っていたかもしれません。ともかく、その臭覚に関わる情報は、この場面を想像するのに案外大切な情報なのではないかと思いました。何故ならば、形容しがたい空気の流れるこの場所に、わざわざイエス様が足を運んでくださったからです。

この経験を通して、御言葉を共に読まなければ、知り得ないイエス様の姿があるということ、強く意識させられました。参加者が人生において見聞きしてきたことが生かされる時に、そこに居合わせた者の、イエス様に対する信仰と知識が深められていくのです。そして、そのような共通体験は、交わりを成熟させ、また交わりに一致をもたらします。

今も全国各地でもたれているグループ聖書研究の交わりが、キリストのからだ全体が、組み合わされ、つなぎ合わされていく場として、これからも豊かに豊かに用いられていきますように。

# コロナ禍ゆえ、あえてこれを

日本同盟基督教団 多磨教会 牧師 間島 直之



「ヨブ記・伝道者の書」を青年たちの聖書研究会で読みました。コロナ禍に巻き込まれできなくなった青年たちの集会は、ご多分に漏れず ZOOM での交わりに移行しましたが、そこで私たちの学びを導いてくれたのは、やはり「聖書を読む会」のテキストでした。手始めに「旧約聖書の聖徒たち」の 1 と 2 を読みました。これは私も学生時代から慣れ親しんだ読み切り型の聖研でした。

これが終わってさて次は、と相談したところ、ぜひにと、リクエストされて始めたのが「ヨブ記・伝道者の書-苦しみの日-」でした（実は参加者にヨブ記を愛読する学生がいて、その熱心に押し切られました）。「難解」と評されることの多い二つの書物ですが、質問に導かれて本文を読みすすめるうちに、全体を貫く大きなテーマが見えてきました。とかく細部の解釈にこだわりがちな説教者としては、語る人物たちの心に思いを巡らせつつ、ヨブと友人たちがしたように、聖研参加者たちとの対話の中でみことばの使信を探るのは、心躍る経験でした。今だからこそ、この書物を読む意味も大きかったと思います。悩みや迷いの渦巻く私たちの世に、神が遠い昔から語り続けるみことばの、なんと新鮮で慰め深いことでしょう。

このテキストを使う方は、ゆったり時間を取って決して焦らず取り組まれることをお勧めします。急いで結論に至ろうとせず、時にはヨブとともに頭を抱え、伝道者とともにため息をつきつつ、一步一步進まれると良いと思います。各課の終わりに「まとめ」「考えよう」「祈り」が置かれていて、大変有益です。しかしこれは我慢して最後までとっておいて、参加者の皆さんと一緒に「ああでもない、こうでもない」と言いながら、祈りつつ読むならば、祝されたみことばの体験となるでしょう。

## SYK 便り

### 秋の SYK セミナー（9 月 10 日）の報告

「初めてスモールグループ・リーダーになる方のためのセミナー」を開催しました。合計 21 名が参加。今年度から新しく SYK ボランティアになってくださった方々が、初めて司会をしてくださいました。

## 第二回 スモールグループ・セミナー（10月22日）の報告

日本ウィクリフ聖書翻訳協会、聖書同盟、聖書を読む会共催による第二回目のセミナーでは、宣教教会主任牧師の児玉武志先生が「礼拝説教をスモールグループで分かちあう恵みと豊かさ」と題してお話くださいました（ウェブサイトから視聴可）。合計44名が参加。聖書同盟の「みことばの光」と、いのちのことば社の「マナ」を使って分かち合う方法も、分科会で語り合われました。

手引「歴代誌」は、出版準備中です！

## 春のSYKセミナー ご案内

テーマ：手引を用いて「ルカの福音書」を読む

内容：ルカの福音書の特徴を学んだ後、グループで手引きを使ってみことばを読み、ディスカッションします。

日時：2023年3月11日（土）15:00-16:30

費用：無料、方法：オンライン

申し込み：お名前と「春のSYKセミナー参加希望」と書いて [sykoffice21@gmail.com](mailto:sykoffice21@gmail.com) 宛にお申し込みください。今から申し込み可能、2023年3月6日申し込み締め切り。3月10日までに、詳細を含めたリマインダーメールを差し上げます。



## 新理事就任

長い間理事として奉仕してくださった廣瀬薫先生と小池三枝子姉妹が昨年度で任期満了となりました。長年に渡る理事の働きを心から感謝いたします。また、今年度から、以下の方々が新たに理事として加わってくださいました。新理事の方々を心から歓迎いたします。堆朱光良姉妹（日本長老教会 千住キリスト教会牧師夫人）、青山潤先生（浜田山キリスト教会主任牧師）、クラップハム真紀子姉妹（CMS オーストラリアの宣教師）。新しい視点から、SYKの働きを推進してくださることを期待しています。

### 編集後記

今日も、小さなグループが、世界のあちこちで、聖書を開き「ああでもないこうでもない・・・」と、祈りつつ語り合いが続けられていることでしょう。「こんな時だからこそ」、「こんな形容し難いところにまでおいでくださった」主イエスさまのご降誕に静かに思いを寄せつつ、仲間と一緒にみことばに向き合いたいと思います。（ns）

